

[要旨]

3 種類の単称思想

——既存説の整序による単称思想の複数様態の存在の明示化——

須田 悠基

単称思想は、思考主体が特定の唯一つの対象を念頭に置く際に成り立つ思想であるとされる。この単称思想概念の成立には、ラッセルにより提起された〈見知り〉という条件が必要であるという考えが一般的である。しかし、〈直接指示の理論〉の興隆を背景にして、ラッセルの見知り条件を拡張、もしくは破棄すべきだとする主張が複数なされた。これに伴い、単称思想の正確な定義や成立条件に関して各論者の間に多くの混乱が生じ、現在まで何ら合意が得られていない状況となっている。

そこで本稿では、単称思想概念の正確な定式化が試みられることとなる。まず、単称思想に関するラッセルとクレインの定義が対比され、それぞれの内実が述べられる。そして単称思想概念をめぐる混乱の要因である、ラッセルの定義と直接指示論の関係が概観される。その後、ラッセルの定義を改定することを目的として提案されてきた単称思想の成立条件にまつわる複数の立場——言語的見知り説、因果見知り説、道具主義、認知主義、そして記述的心的ファイル説——が整理され、これらの立場がどれもラッセル的定義と折り合わないため、クレインの定義が採用されるべきであることが主張される。結果として、単称思想の成立条件を最も良く示すことができる立場は記述的心的ファイル説及び認知主義であることが明らかとなる。しかしながら、これらの立場は単称思想のミニマルな成立条件に過ぎず、より限定的な条件下で成り立つその他二つの単称思想が存在することが同時に示される。そして最終的に単称思想は、成立要件やその機能がそれぞれ異なる3種類のものに分かれることが主張される。また、この主張を受け入れることで、クレインの定義に加えて、ラッセルの定義をもより限定的な条件として保持できることが明示される。